決算短信補足資料

会社概要

会社概要

会社概要	
名称	株式会社N・フィールド
代表者	代表取締役社長　　野口 和輝
本社	大阪府大阪市北区堂島浜1-4-4　アクア堂島東館4F
設立	2003年 2月 6日
資本金	5億1,988万円（2013年9月末現在）
従業員数	268人（2013年9月末現在）
事業内容	精神科に特化した訪問看護、訪問介護、　賃貸事業 ※賃貸事業とは、退院予定の患者様のため、サブリース等の方法により住居確保を行うサービス

訪問看護とは

訪問看護とは、介護保険法に基づく、居宅サービス事業であり、看護師等がご自宅等を訪問し、主治医の指示により行う在宅医療サービス（療養上の世話又は必要な診療の補助）

訪問看護を必要とする全ての方を対象とし、赤ちゃんからお年寄りまで、性別・国籍・宗教・地域等に関係なく利用できます。病気や障がいがあっても、医療機器を使っていても、自宅で安心して暮らせるように多くの職種と協働しながら、療養生活を支援します。訪問看護ステーションからは、正看護師、准看護師、保健師、精神保健福祉士、助産師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、が訪問します。

沿革

＜医療行政＞
医療費抑制のための各種施策:「退院促進」と「在宅医療へのサポート充実」の流れ
精神科医療:2004年9月「精神保健福祉政策の改革ビジョン」において2015年までに精神病床数7万床削減目標

2003年2月　(株)N・フィールド設立

訪問看護

Dune 訪問看護ステーション

2003年3月　訪問看護ステーション　デューン開設（大阪）
2010年 8月　デューン札幌開設
2010年10月　デューン福岡開設
2010年10月　デューン東京開設
⇒ 2013年9月末現在 全国35拠点

訪問介護

Dune 訪問介護ステーション

2007年7月　ヘルパーステーション　デューン開設（大阪）
2013年9月末現在
⇒ 1拠点

賃貸事業

医療連携推進部（退院支援サービス）
2008年6月　不動産事業部（住宅販売・賃貸事業）新設
2010年12月　住宅販売から撤退　賃貸部門を医療連携推進部に
2013年9月末現在 ⇒ 全国3拠点

訪問看護サービスの主な内容

弊社における訪問看護サービスの主な内容

気分の落ち込みやうつ状態など精神状態を把握し、気分転換やリラックス法、コミュニケーションの取り方などを助言します。また、定期的な訪問により、バイタルチェック、服薬の管理、事故防止のケア、生活リズムの調整、社会生活への復帰援助、必要なサービスの活用を支援し、近隣住民、主治医、医療機関、行政機関の担当者との調整を行い、緊急対応も行います。

具体的援助内容

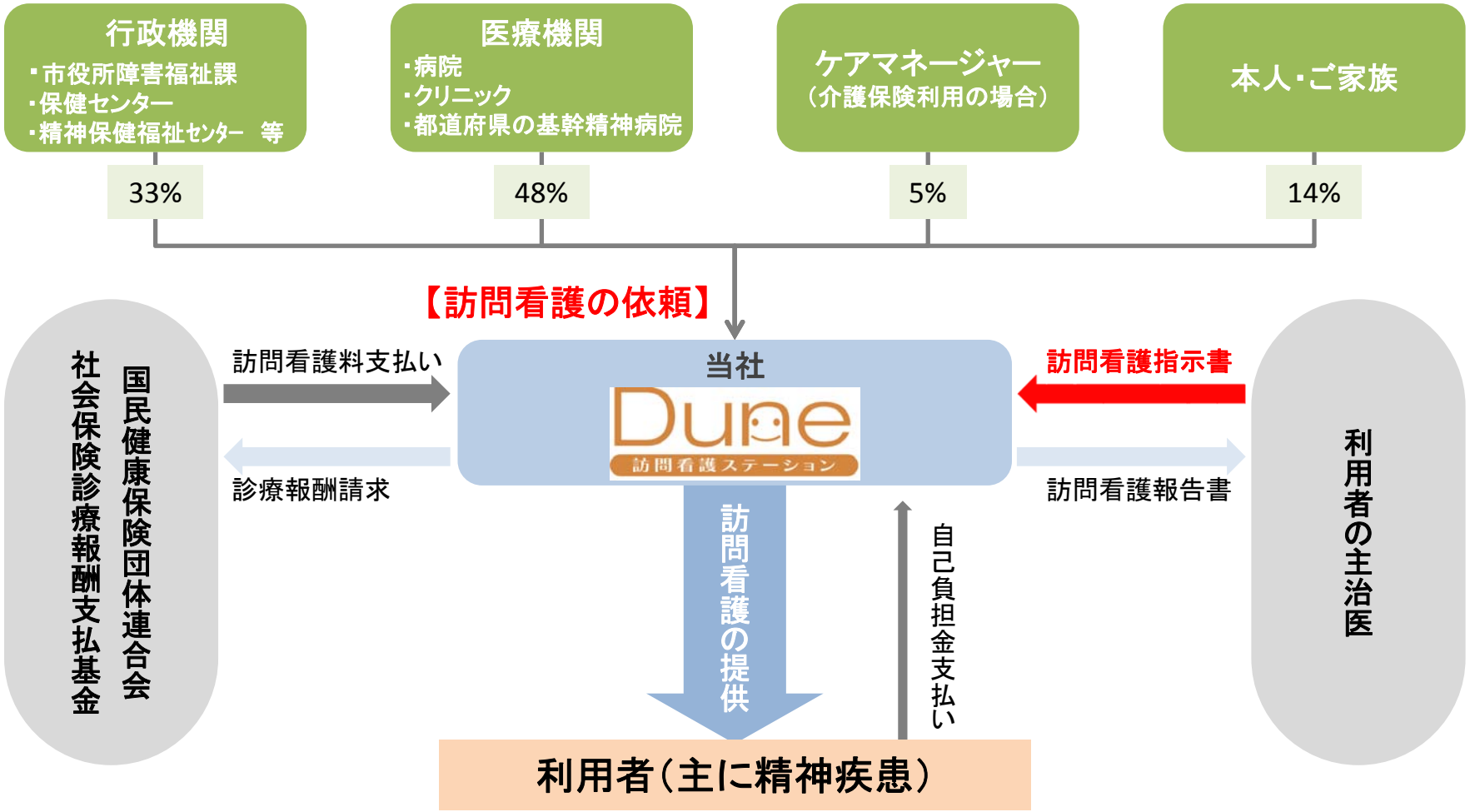
- ✓ 症状のコントロールや治療の継続
- ✓ 家族関係の調整
- ✓ 対人関係の相談
- ✓ リフレッシュへの援助
- ✓ 日常生活の援助
- ✓ 家族の悩み事や不安の解消
- ✓ 社会資源の活用援助
- ✓ 今後の生活設計などに関する相談

利用者

精神疾患の種類	統合失調症、うつ病、双極性障害（躁うつ病）、器質性精神病、神経症性障害、人格障害、発達障害、知的障害、アルコール・薬物依存症、認知症、など多種多様
利用者の特徴	治療が長期に及び定期的な服薬・治療が必須だが、利用者に「病識」が乏しく服薬中断などで病状が悪化するケースが多い。 単身生活者が多く、治療の継続と安定した生活を維持させるためには医療関係者の見守りとケアを必要とする。

訪問看護ビジネスフロー

行政や病院は、当社の実績を元に訪問看護の依頼（利用者の紹介）をしてくる傾向が強い



第11期第3四半期実績

第11期第3四半期決算のポイント

1.黒字体質への転換

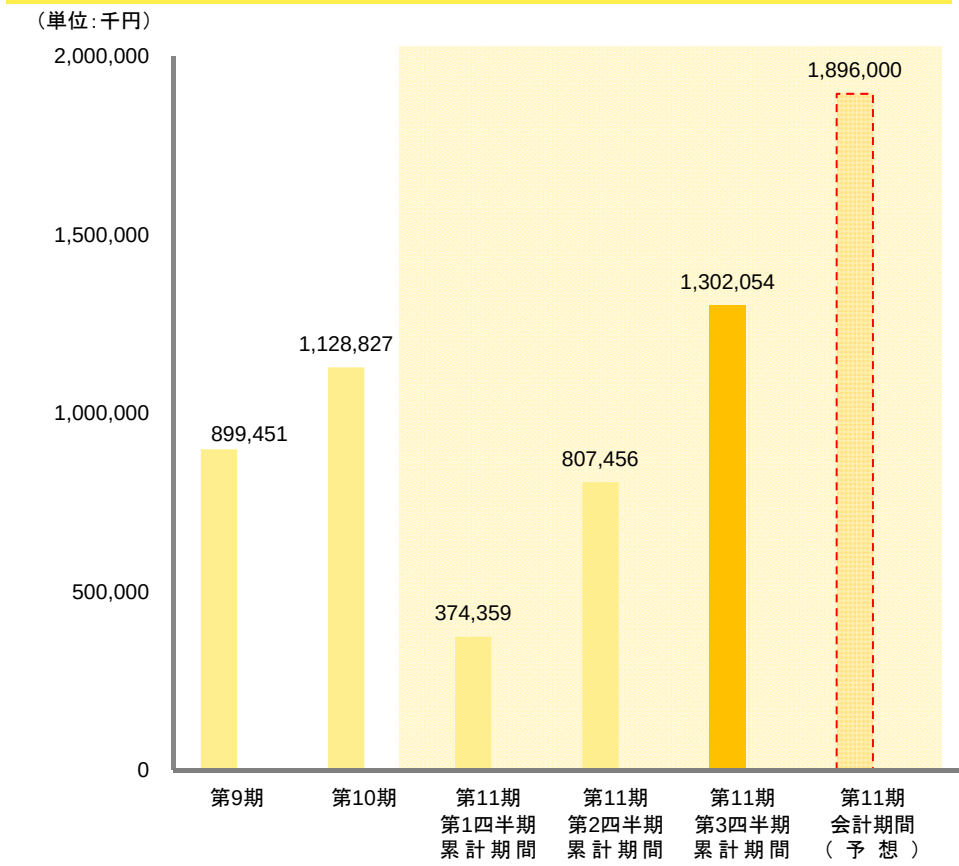
2.上場による資金調達で財務体質改善

3.繰越欠損金の解消が課題

売上高及び資産項目の推移

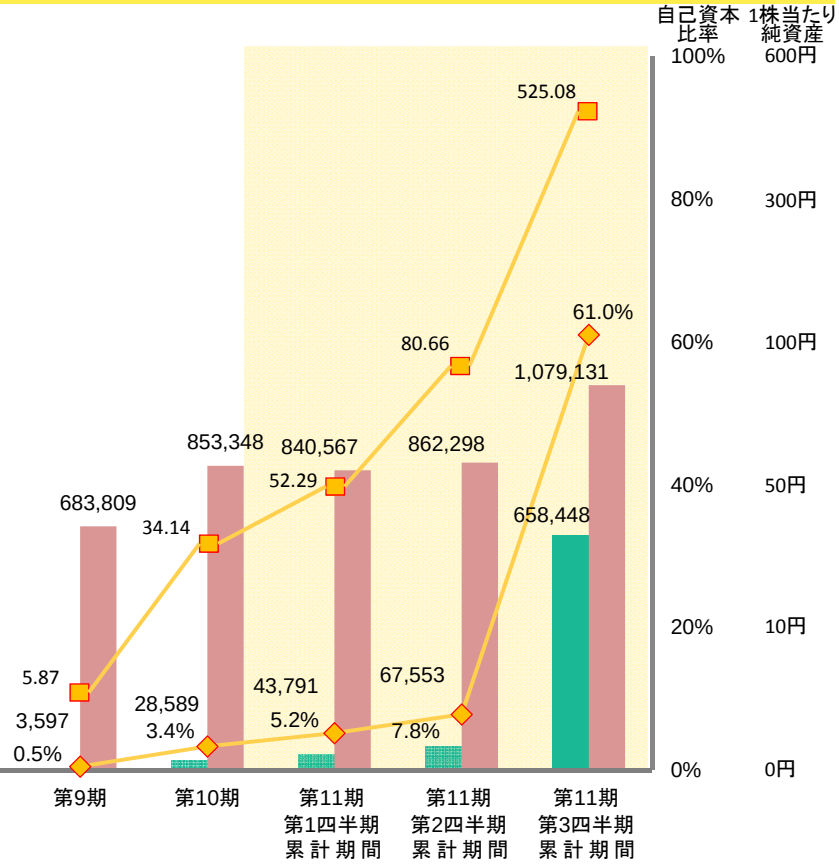
※第3四半期で昨年の売上をクリア

売上高



※上場による資金調達で自己資本比率が大幅に向上

純資産額・総資産額・自己資本比率



売上高（左軸）　売上高（左軸）　総資産（左軸）　純資産（左軸）　自己資本比率（右軸）　1株当たり純資産（右軸）

第11期 売上高及び利益の推移

※黒字体質への転換

（単位：千円）

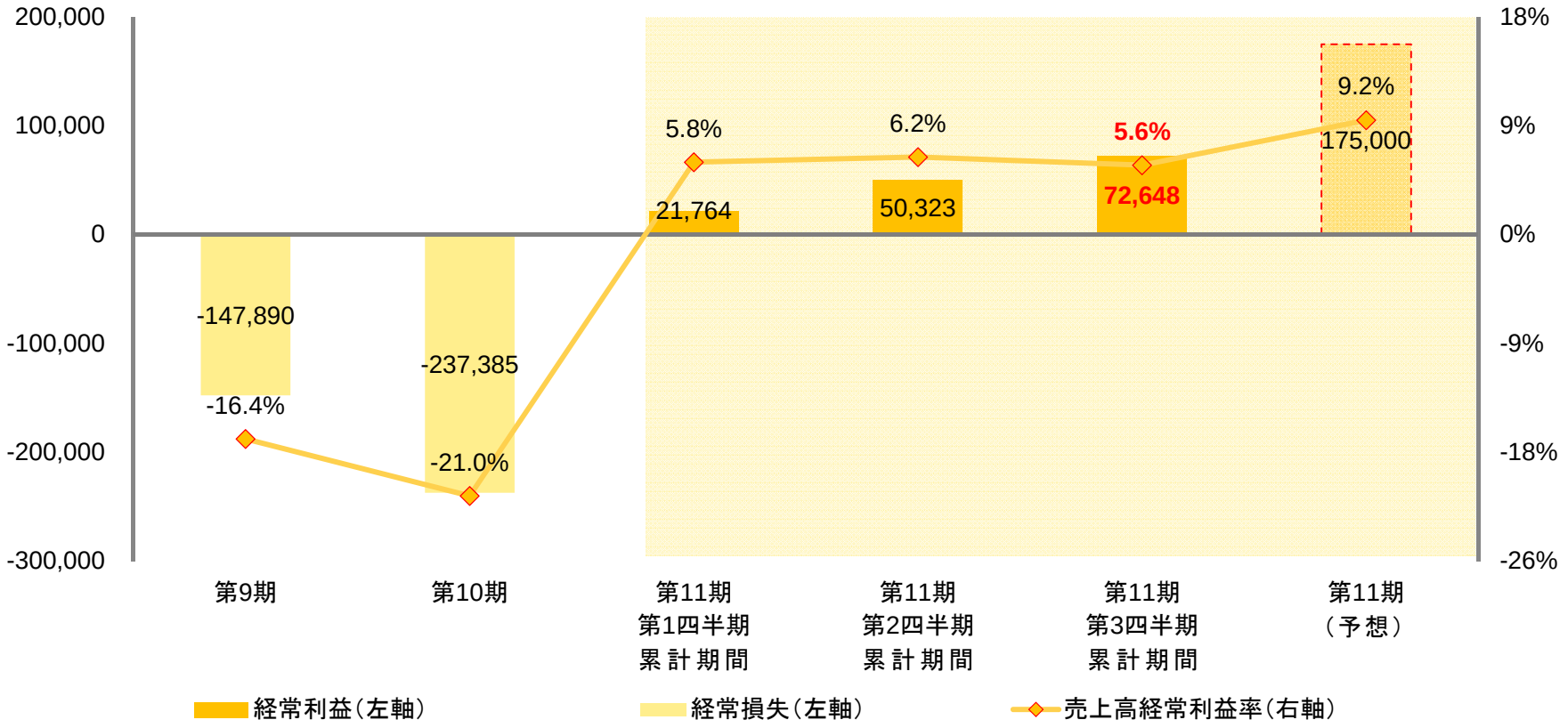
	第1四半期累計期間	利益率	第2四半期累計期間	利益率	第3四半期累計期間	利益率
売上高	374,359		807,456		1,302,054	
売上総利益	136,557	36.5%	293,780	36.4%	471,572	36.2%
営業利益	25,196	6.7%	57,736	7.2%	97,914	7.5%
経常利益	21,764	5.8%	50,323	6.2%	72,648	5.6%
四半期純利益	15,202	4.1%	38,963	4.8%	55,088	4.2%

経常損益と売上高経常利益率の推移

※第10期10月より単月黒字化。以後も順調に推移。

経常損益と売上高

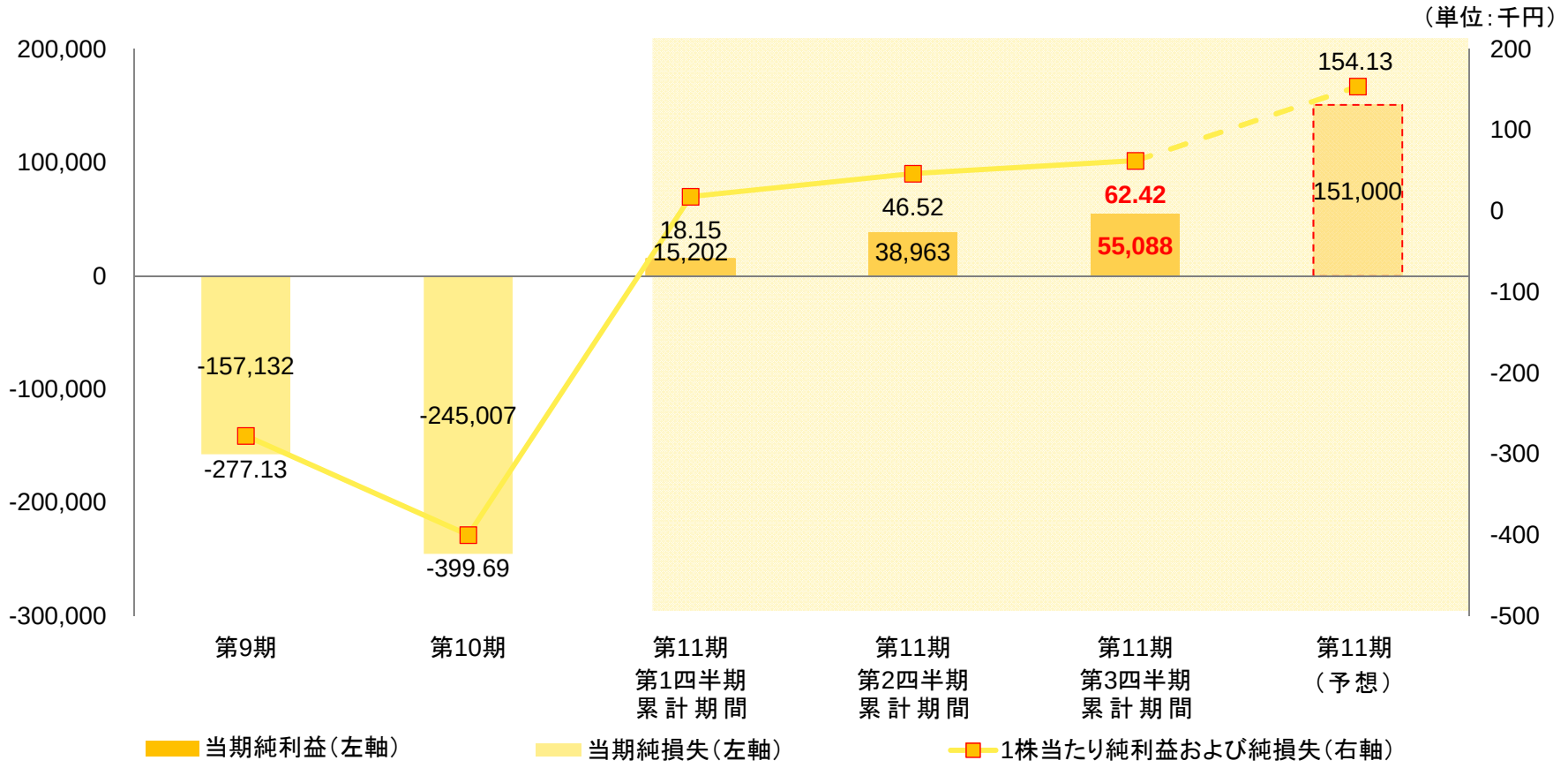
（単位：千円）



当期純損益

※当期純損益も黒字化

当期純利益・当期純損失



第11期 貸借対照表推移

※繰越欠損金の早期解決が課題

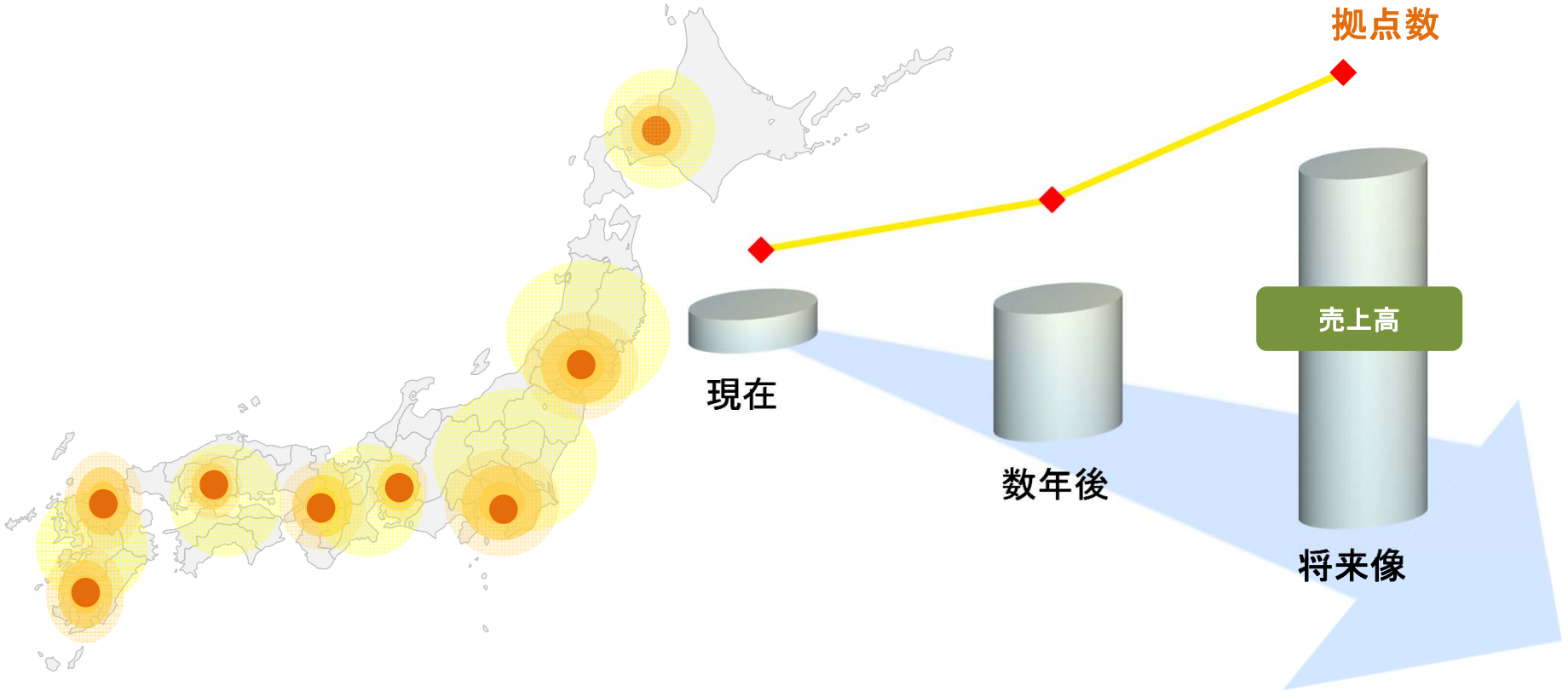
（単位：千円）

	第１四半期会計期間	第２四半期会計期間	第３四半期会計期間	第１四半期からの増減	増減 主要因
資産	840,567	862,298	1,079,131	238,563	✓ 現預金の増加 118,500千円 ✓ 売掛金の増加 83,000千円 ✓ ソフトウェア仮勘定の増加 26,000千円
流動資産	480,812	506,561	681,418	200,605	
固定資産	359,754	355,736	397,712	37,957	
負債合計	796,775	794,745	420,683	▲376,092	✓ 短期借入金の減少 190,000千円 ✓ 社債の減少 165,000千円 ✓ 長期借入金の減少 69,000千円
流動資産	536,026	713,214	373,870	▲162,155	
固定資産	260,749	81,531	46,812	▲213,937	
純資産合計	43,791	67,553	658,448	614,656	✓ 株式市場による資金調達により資本金及び資本準備金が増加
利益余剰金	▲391,208	▲367,446	▲351,321	39,886	✓ 当期利益の計上により利益剰余金のマイナス幅が減少
1株当たり純資産	52.29円	80.66円	525.08円	472.79円	
自己資本比率	5.2%	7.8%	61.0%		

今後の事業展開

今後の事業展開イメージ

※全国47都道府県への出店を目標に拠点数拡大を図る



本資料に対するお問い合わせ先

経営企画室　TEL：06-6343-0600

FAX：06-6343-0601

HP： http://www.nfield.co.jp/

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスク及び不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。